

## 研究主題

## 小学校における教科担任制の現状と課題について

## 法 制 委 員 会

## 1 はじめに

小学校における教科担任制は、教科指導の専門性をもった教員によるきめ細かな指導の充実や教員の負担軽減などを図るために、専科指導教員が加配されている。優先的に専科指導の対象とすべき教科を外国語、理科、算数、体育とし、令和4年度より学習が高度化する小学校高学年において実施され、令和7年度は中学年にその対象を広げている。

そこで、法制委員会では、小学校における教科担任制の実施状況を調査し、制度運営上の意義と課題を整理するとともに、今後の制度の在り方について研究を進めることにした。

## 2 調査研究活動（令和6年度実施）

- ・ 県下公立小学校 698 校

尾張 小学校 353 校 三河 小学校 345 校

- ・ 調査対象になった学校規模とその割合

※学級数には特別支援学級を含まない

過大規模 31学級以上	大規模 19～30学級	標準 12～18学級	小規模 6～11学級	過小規模 1～5学級
1.7%	25.8%	37.7%	29.8%	5.0%

## 3 調査結果について

## (1) 専科指導教員の加配による教科担任制の実施状況について

＜表1 専科指導教員の加配の有無＞

学校規模	過大規模	大規模	標準	小規模	過小規模
加配あり	66.7%	65.2%	53.2%	23.0%	16.7%

※数値には、兼務校での加配も含む

＜表2 教科担任制実施教科（複数回答）＞

教科	外国語	理科	体育	算数
実施割合	48.8%	40.8%	17.8%	16.0%

表1から分かるように、専科指導教員の加配により、過大規模・大規模校の約7割で教科担任制の授業が行われている。また、過小規模・小規模校では約2割となっている。さまざまな教科を担当できる教員が在籍する大規模校に、専科指導教員が加配されていると考えられる。

対象とすべき4教科については、表2より英語科の授業が5割、理科の授業が4割の学校で行われている。専門性が求められる教科や事前の準備に負担の大きな教科で、教科担任制を活用している。

## (2) 自主的な教科担任制の実施状況について

＜表3 自主的な教科担任制実施の有無＞

学校規模	過大規模	大規模	標準	小規模	過小規模
実施	83.3%	90.8%	85.9%	73.2%	72.2%

専科指導教員の加配ではなく、学校独自で自主的に教科担任制に取り組む学校について調査した表3の結果では、学校規模が過小規模、小規模でも7割を超える学校で教科担任制の取組が行われていることが分かった。役職が授業を担当するなど、各校が工夫して取り組んでいる。

＜表4 教科担任制実施学年（複数回答）＞

学年	6年	5年	4年	3年	2年	1年
実施割合	96.8%	93.4%	81.0%	73.3%	38.1%	24.9%

表4の実施学年の状況では、5、6年生で9割、3、4年生で7割を超える学校で自主的な取組が行われている。令和4年度からの3年間は、高学年での取組を基本に専科指導教員加配が行われていたが、中学年に

においても、教科担任制の効果を期待し、担任間で授業を交換して取り組んでいる。過小規模校では、低学年も含めた全校で取組を行う学校が3割程度見られた。教科の専門性を生かすために、中学校の教員が小学校へ出向き、授業を担当する地区もあった。

＜表5 教科担任制実施教科(%) (複数回答)＞

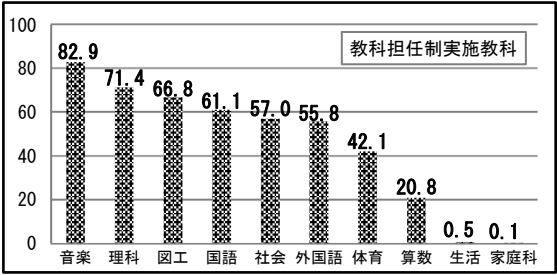


表5から、教科担任制が多く実施される教科として、音楽科 82.9%、理科 71.4%、図画工作科 66.8%が挙げられる。実技や実習、実験などに関する専門的知識を必要とする教科では質の高い授業を行うため、準備に多くの時間がかかる教科では教員の負担軽減を図るため、教科担任制の効果が得られる。その反面、算数科は、専科指導教員の加配校の結果と同じように、実施状況が2割程度となっている。児童の学力の定着度を把握するには、学級担任の力に頼ることが多く、算数科は担任による授業がよいといった意見が聞かれた。

(3) 教科担任制の意義と成果について

＜表6 教科担任制の意義と成果 (複数回答)＞

Q 教科担任制を取り入れたことによる効果は何ですか。	
回 答	割合(%)
・一つの学級に対して多くの教員で関わることにより、多面的な児童理解ができ、諸問題に対して、組織やチームで対応することができる	77.7%
・担当しない教科分の教材研究や準備の時間が削減できる	58.0%
・専門的でより質の高い授業ができる	52.6%
・同じ授業を複数回行うことができるため、さらなる授業改善をすることができる	37.7%
・授業の持ちコマ数が減り、空き時間が増える	36.0%
・各教科の教員が自分の強みを生かすことができる	19.0%
・学校の教科担任の体制に早い段階で慣れることができる(中1ギャップの軽減)	6.6%

表6の教科担任制を取り入れることによる効果は、「一つの学級に対して多くの教員で関わることにより、多面的な児童理解が

でき、諸問題に対して、組織やチームで対応することができる」という回答が77.7%と多かった。また「教材研究や準備の時間が削減できる」、「専門的でより質の高い授業ができる」という回答も半数を超えた。

(4) 教科担任制の充実について

＜表7 教科担任制の充実について (複数回答)＞

Q 教科担任制を充実させるために、今後必要なことは何ですか。	
回 答	割合(%)
・専科指導教員の加配を拡大する	83.3%
・専科指導教員の対象教科を拡大する	69.0%
・高学年から中学年まで対象を広げる	21.4%
・小学校における教員配置で、各免許教科のバランスをよくする	16.5%
・高学年から低・中学年まで対象を広げる	8.7%

表7から、専科指導教員加配拡大を希望する回答が83.3%と非常に多い。小学校は、中学校ほど担任外の教員数が多くないため、現状の教員数では教科担任制の実施が難しい。学校が組織的にチームとなり、児童を指導するには、教員の加配が必要となる。また多くの学校が、現在の対象となる4教科だけでなく、音楽科、図画工作科(表5参照)も含めた対象教科の拡大を希望している。

4 まとめ

- 各校から以下のような意見があった。
- ・児童がさまざまな大人と関わり、多くの大人で児童を見守る体制をつくるため、全小学校での教科担任制の充実を図ってほしい。
  - ・教科担任制は、生徒指導の面や働き方改革の面で効果がある。実施教科の拡大と加配教員の確保を含め、拡充していくことを希望する。
  - ・小規模校は、専科指導教員が加配されないことが多い。担任間の授業交換や役職による授業担当で教科担任制を行うのではなく、学校規模に関わらず、どの学校でも質の高い教育が行われるように、教員の加配を希望する。

本年度も効果的な教科担任制のあり方について、各校の取組が進められている。児童が安心して学びに向かえるように、加配教員の拡充や対象教科の拡大など、校長会として、引き続き関係機関に働きかけていく必要がある。

## 1 経過報告

10月15日(水)	公立高校入学者選抜実施要項説明会<三河>	西三河総合庁舎
11月6日(木)	愛知県名古屋市合同進路委員会⑤	県教育会館
11月7日(金)	三河校長会理事会郡市代表者会	竜美丘会館

## 2 連絡事項

(1) 令和8年度公立高校入学者選抜実施要項説明会(10/15)

- ・Web出願制度の説明(昨年度との変更点を中心に)  
2月5日推薦・特色等選抜(9日発表) 2月25日一般選抜(3月10日発表)
- ・4年目を迎える新入試制度の確認
- ・今後、感染症等の対応を含め、適切な実施に向けて、県教委、高等学校長会と連携していく。

(2) 第5回合同進路委員会(11月11日の三河進路委員会にて各地区代表を通じて連絡)

- ・Web出願全県試行について(10月22日より)  
試行終えての不具合・質問の集約→県教委へ
- ・次年度に向けた年度末アンケートについて
- ・私学との確認事項
- ・R8定期テストについての申し合わせ(2学期末・学年末)
- ・令和9年度入試予定
- ・「公立入試における校長の対応」の周知徹底

## 3 今後の予定

11月11日(火)	三河進路委員会⑤	三河教育会館
12月19日(金)	愛知県進路指導中高連絡会②	県教育会館
12月17日(水)	～19日(金) 私学教育相談	
1月14日(水)	三河校長会(オンライン)	
1月14日(水)	私立高校推薦入試高等専修学校推薦特色入試	
1月21日(水)	～23日(金) 私立高校・高等専修学校一般入試	
1月26日(月)	愛知県名古屋市合同進路委員会⑥	県教育会館
2月 3日(火)	三河校長会	岡崎 NGH
2月 4日(水)	三河進路委員会⑥	三河教育会館

## ○テーマ「児童・生徒から被害を打ち明けられたら」

日 時 令和7年10月20日（月）

講 師 名古屋地方検察庁岡崎支部 検事 中川 優 氏

8

### 1 児童・生徒から被害を打ち明けられたら

学校は、子どもにとって、とても大事な場所。信頼する先生、安心できる先生に事件ことなどを打ち明けることがよくある。この時の対応が、今後の子どもの安全に大きく貢献する。最小限の聞き取りで、司法・福祉の専門家につなぎたい。

### 2 初期聴取に際して

#### （１）司法面接とは

検察庁・警察・児童相談所の三機関が連携して代表者が録画しながら聞き取りを行うもの。聞き取りの回数を減らして子どもの負担を減らすこと、暗示や誘導などによる記憶の汚染を防ぐために行うもの。

令和5年に刑事訴訟法の一部が改正され、「司法面接」の録画データが、法廷での子ども自身の証言と同様に扱われるようになった。

#### （２）学校での初期聴取に関するお願い

##### ①速やかな通告・通報を（最小限の初期聴取で）

「誰が、誰に、何をした」程度の簡単な聞き取りにとどめ、関係機関（児童相談所、警察等）へ通告・通報をする。

##### ②暗示や誘導、記憶の汚染を防ぐ（発問の仕方）

- ・×「ほっぺたが腫れているけど、誰かに叩かれたの？」  
➡「ほっぺた、どうしたの？」
- ・×「エッチなことされたって、胸とかお尻とか触られたの？」  
➡「エッチなことされたって教えてくれたけど、そのことを全部教えて」
- ・×「あなたが虐待されているって聞いたけど、本当？」  
➡「お家で何か心配なことがあるの？」
- ・×「(触ってきた)おじさんって、何歳くらい？メガネとかしていなかった？」  
➡「そのおじさんって、どんな人だった？どんなことでもいいから教えて」

##### ③不適切な発言を避ける

- ・「誰にもいわないからお話しして」  
守れない約束をしない。子どもが不信感を抱かせ、被害を開示したことを後悔することにつながるかもしれない。
- ・「話してくれないと先生困るな」  
あたかも話をしない自分が先生を困らせているのだと、子どもを責めているように感じる。

### 3 質疑より

- ・「最小限の初期聴取」でとどめるのは、現場では難しいことが多い。  
→ 子どもが自発的に話す分には問題はない。発問・発言には気を付ける。
- ・正確な記録を残すために、聴取の内容を許可なく録音することは法的にはどうか。  
→ あくまでも「メモ」として扱うならば問題ない。

## 望ましい聴取の例

【子】 「先生、あのね」

【先生】 「どうした？」

【子】 「～された」

【先生】 「誰がしたの？」

【子】 「××」 (加害者)

【先生】 「誰にしたの？」

【子】 「私に」

【先生】 「そうか、よく話してくれたね 一緒に考えようね」

ここまで聴取できたら、子どもの答えだけでなく、先生の質問も含めて記録し、通報、通告をお願いします。

### 聴取のポイント

- ・ 子どもに語ってもらうにとどめ、仮説は提示しない
- ・ 同じ質問を繰り返さない
- ・ 子どもの言葉を言い換えない (パチンした→叩いた)
- ・ 「はい・いいえ」で答えられる質問を避ける
- ・ 「いつ？」や回数、頻度を聞き出そうとしない

教育機関向け

## 児童・生徒から被害を打ち明けられたら

### 司法面接を見据えた初期聴取



愛知県警察本部 少年課

名古屋地方検察庁 刑事部

## 良い発問・悪い発問の例

### 子どもが負傷している場合

- × ほっぺたが腫れているけど、誰かに叩かれたの？
- ほっぺた、どうした？

### 子どもから「エッチなことされた」と相談を受けた場合

- × エッチなことされたって、胸とかお尻とか触られたの？
- エッチなことされたって教えてくれたけど、そのこと全部教えて

### 他の児童から対象の児童が虐待されているとの情報を得た場合

- × あなたが虐待されているって聞いたけど、本当？
- おうちで何か心配なことがある？ (第三者からの情報を伝えない聞き方を)

### 登校途中、おじさんにお尻触られたと相談された場合

- × おじさんって、何歳くらい？ メガネとかしてなかった？
- そのおじさんってどんな人だった？ どんなことでもいいから教えて

## 不適切な発言の例

- ・ 誰にも言わないからお話して (守れない約束をしない)  
「誰にも言わないなら話す」と言われたら、「〇〇さんが安心して勉強できる (暮らせる) ようにするのが先生たちの仕事だよ」「どんなことでも話してね」等と声掛けする。
- ・ 話してくれないと先生困るな。(子どもを責める言葉を使わない)



## 司法面接とは

平成 27 年から、検察庁・警察・児童相談所では三機関が連携して、児童虐待などの子どもが被害となる事件を認知した場合

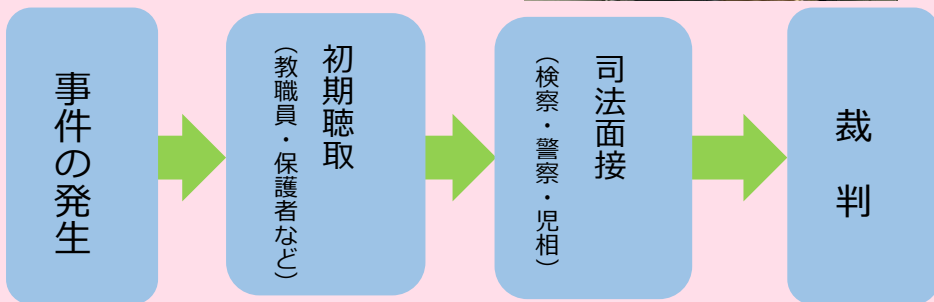
- 聞き取りの回数を減らして子どもの負担を減らす
- 暗示や誘導をしないなどの聴取技法を使用して供述の汚染を防ぐ

ためにトレーニングを受けた三機関の代表者 1 名が録画しながら聞き取りを行う「司法面接」を行っています。（代表者聴取、協同面接とも言います）

面接室



モニタールーム



## 法改正で、初期聴取のあり方がより重視されます

令和 5 年、刑事訴訟法の一部が改正され、「司法面接」の録画データが、法廷での子ども自身の証言と同様に扱われ得るようになりました。ただし「司法面接」に至るまでの状況（初期聴取）等から相当と認められる場合に限られるため、初期聴取がどのように行われたかが重要です（刑事訴訟法第 321 条の 3）。

### 聴取の方法が良くないと

初期聴取で、暗示や誘導等の疑われる聞き取りが行われると「司法面接」でせっかく子どもが被害を話しても、不適切な初期聴取の影響を受けている可能性があるとして信用性に疑いを差し挟まれかねず、刑事事件として扱えなかったり不起訴や無罪になったりすることがあり、更に子どもが傷つく可能性があります。

## 初期聴取に際してのお願い

学校は、子どもにとって、とても大事な場所。信頼する先生、安心できる先生に事件の事などを打ち明けることがよくあります。この時の対応が、その後の子どもの安全に大きく貢献します。最小限の聞き取りで、司法・福祉の専門家につないでください。子どもを守る輪を、一緒に作りましょう。

### ☑ 速やかな通告・通報を（最小限の初期聴取を）

何らかの被害が疑われる場合は、「誰が、誰に、何をした」程度の簡単な聞き取りにとどめ、児童虐待が疑われる場合は児童相談所へ、その他の被害であれば警察へ通告・通報をお願いします。司法・福祉につないだ後は、自然に温かく子どもを見守ってください。通報・通告の後、更に子どもが話をしたときは、「大事なことから（司法・福祉の担当者）にお話ししよう」などと励ましてください。

### ☑ 教職員の方に証人出廷の可能性も（できる限り正確な記録を）

今後、裁判において、子どもがどのように最初の報告をしたのか確認するため、教職員の方が証人出廷を求められることも予想されます。裁判では子どもがどの機会に話したのか、どんな質問に対して子どもがどう答えたかがとても重要です。子どもの言葉や先生が質問した言葉、子どもの様子をスマートフォン等で録音するか、難しければメモするなど、できる限り正確に記録するよう、お願いします。

## 子どもの特性に配慮した初期聴取

子どもは、被暗示性、被誘導性、迎合性が高いため、聴取の方法が良くないと、記憶とは異なる話をしてしまったり、子どもの記憶そのものが変わってしまったたりすることがあります。そのため、初期聴取では

- ☑ 子どもは、大人、特に先生など権威性の高い人に迎合しやすい
- ☑ 子どもは、大人に対して「わからない」「知らない」と言いにくい
- ☑ 子どもは、何度も同じ質問をすると答えが変わってしまいがち

などの子どもの特性に注意しつつ

**Point1** 暗示や誘導を与えない質問を使って

**Point2** 「誰が、誰に、何をした」程度の簡単な聴取

をしていただくようお願いします。

《本日お願いしたいこと》

① 別添 1

- ・今年中に、令和8年度の愛知大会までの準備及び大会当日にお手伝いいただく校長先生方の役割分担を行いたいと考えています。
- ・三河の中学校は全140校。現在すでに東陸中特別委員会に所属しているメンバーが三河で22名、愛知大会の大会長になる予定の先生1名ですので、差し引くと117校。その中から92名の先生方に、当日までの準備及び当日のお手伝いをいただきます。ほぼ全員です。

② 別添 2

郡市代表の先生方をお願いします。

別添2の名簿にお手伝い可能な順に貴地区の今年度の校長先生方のお名前をご記入いただき、東陸中特別委員長の神戸まで、期日までにメールにて別添2データを送付してください。

期 日：令和7年11月20日（木）じゅうを目処に

提出先：メールにて、豊田市立若園中学校 神戸勝一まで

神戸メールアドレス [t1600371@toyota.ed.jp](mailto:t1600371@toyota.ed.jp)

◆来年度を見越して順番を決めてください。

例えば…（口頭で説明します）

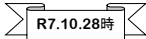
◆順番は厳密なものではなくて結構です。（番号を抹消したり同一番号を複数並べたりもOK）

◆皆様から提出いただいた名簿をもとに、別添1の表にある役割を、東陸中特別委員会で割り振っていきます。

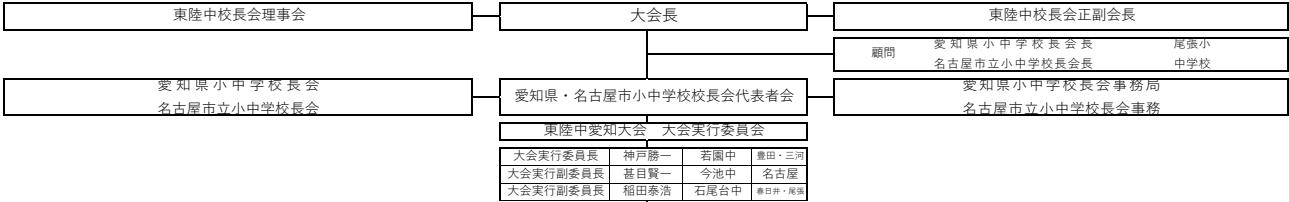
◆今年度中に顔合わせをすることはありません。次年度早々に人員の変更の確認と各先生方への連絡方法の集約を依頼させていただきます。その後、各部ごとに必要な連絡を取りつつ、顔合わせ兼最終打ち合わせは5月中旬～6月初旬に行おうと考えています。

お手数をおかけします。申し訳ございません。

**いよいよ来年7月、三河の校長先生の強い結束力で愛知大会を成功に導きましょう！**  
ご協力、よろしくお願いいたします！



東陸中愛知大会実行委員会組織表（役割分担表）



R6・7年度  
合同委員会メンバー  
(合同委員会に出席)

R7年度  
(作業部会に出席)

R8年度  
主に三河地区から  
実行委員を追加  
(大会当日の実動部員)

1 総務部	2 会計部	3 研究部	4 会場部	5 会員部	6 宿泊部
部長 神戸 勝一 若園中 豊田・三河 副部長 基目 賢一 今池中 名古屋 副部長 高木 順二 犬山中 尾張	部長 尾崎 淳一 竜北中 知立・三河 副部長 武内 真人 楠中 名古屋 副部長 倉橋 裕二 尾西第一中 尾張	部長 田中 基明 釜屋中 豊田・三河 副部長 稲田 泰浩 石尾台中 春日井・尾張 副部長 鈴木 貴明 牧の池中 名古屋	部長 原田 正樹 東山中 愛知・三河 副部長 橋田さゆり 美和の中 あま・津島 副部長 二階 千晶 豊国中 名古屋	部長 佐野 裕哉 東郷中 豊田・三河 副部長 青木 俊 〔尾張〕北郷中 春日井・尾張 副部長 松坂 圭子 鎌倉台中 名古屋	部長 河合 宏則 東部中 豊田・三河 副部長 深谷 幸弘 植田中 名古屋 副部長 加納 有希 大里東中 尾張

係 氏名 校名 ブロック ①庶務統括 松井 幹崇 松平中 豊田・三河 ②渉外 松原 秀敏 崇化館中 三河 ③全体進行 杉山 和弘 浄水中 三河 ④記録写真 山本 俊輔 三好丘中 三河	⑤会計部	係 氏名 校名 ブロック ⑥分科会運営 小林 和弘 代田中 三河 ⑦分科会記録 兵藤 輝徳 バツ美中 三河 ⑧大会誌等 編集 林 正彦 新香山中 三河 ⑨宣言・集録 榊原 和憲 庵が音中 三河	係 氏名 校名 ブロック ⑩全体会会場 杉浦 哲 西郷中 三河 ⑪分科会会場 今井 厚志 明祥中 三河	係 氏名 校名 ブロック ⑫受付・案内 内藤 晴夫 吉田方中 三河 ⑬接待 小川 純子 中部中 三河 ⑭申込 菅備 和也 八名中 三河 ⑮警備・救護 松本 和也 八名中 三河	係 氏名 校名 ブロック ⑯宿泊 平野 光也 本郷中 三河 ⑰レセプション 井上 勝哉 寺津中 三河 ⑱サポート 丹下 義輝 若津中 三河
---	------	--	---	---	--

②報道対応 報道受付 豊田 1 ③講演補助 豊田 2 PC対応・操作 豊田 3 投影用カメラ 豊田 4 操作 豊田 5 ③講師案内 駐車場へ出迎え 豊田 6 控室へ案内 豊田 7 ④記録写真 記録写真 三河 8 三河 9	⑥分科会運営責任者（司会者と別） 第1分科会 三河 第2分科会 三河 第3分科会 三河 第4分科会 三河 第5分科会 三河 第6分科会 三河 第7分科会 三河 第8分科会 三河 ⑦分科会記録係 第1分科会 三河 第2分科会 三河 第3分科会 三河 第4分科会 三河 第5分科会 三河 第6分科会 三河 第7分科会 三河 第8分科会 三河	⑩全体会会場 舞台 セッティング 三河 33 三河 34 三河 35 三河 36 三河 37 三河 38 三河 39 客席 三河 40 三河 41 ⑪分科会会場 第1分科会 三河 42 第2分科会 三河 43 第3分科会 三河 44 第4分科会 三河 45 第5分科会 三河 46 第6分科会 三河 47 第7分科会 三河 48 第8分科会 三河 49	⑫受付・案内 分科会案内 (正副会期) 三河 53 三河 54 三河 55 第1分科会 三河 56 第2分科会 三河 57 第3分科会 三河 58 第4分科会 三河 59 第5分科会 三河 60 第6分科会 三河 61 第7分科会 三河 62 第8分科会 三河 63 理事会 三河 64 分科会打合せ 三河 65 三河 66 三河 67 三河 68 三河 69 三河 70 三河 71 三河 72 三河 73 三河 74 三河 75 三河 76 三河 77 三河 78 三河 79 ⑬接待 来賓案内 三河 80 三河 81 三河 82 三河 83 三河 84 三河 85 三河 86 三河 87 三河 88 三河 89 三河 90 ⑭申込・警備・救護 三河 91 三河 92	⑯宿泊 豊橋 91 西尾 92
---	---	--	---	-----------------------



第66回東海北陸中学校長会研究協議会

# 愛知大会 開催要項



「王滝渓谷もみじまつり」 ©愛知県公式観光サイト「Aichi Now」

令和8年7月2日(木)・3日(金)

東海北陸中学校長会

愛知県小中学校長会

名古屋市立小中学校長会

## 第66回東海北陸中学校長会研究協議会 愛知大会 開催概要(案)

1 主 題 「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」

2 主 催 東海北陸中学校長会 愛知県小中学校長会 名古屋市立小中学校長会

3 後援(予定) 愛知県・愛知県教育委員会 名古屋市・名古屋市教育委員会  
全日本中学校長会

4 期 日 令和8年7月2日(木)・3日(金)

5 会 場 ◇全体会:Niterra 日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール  
〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山一丁目5-1  
◇分科会:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 9・10・12 階  
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅四丁目 4-38  
◇理事会:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 12 階 1203 中会議室  
◇レセプション:サイプレスホテル名古屋駅前  
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅二丁目35-24  
◇分科会打合せ会場:ウィンクあいち 10 階 1008 小会議室

6 日 程(案)

(1) 1日目 7月2日(木) 理事会・分科会

	11:00	12:00	13:00	13:30	16:30	18:00	20:00
2日 (木)	理事会	分科会 打ち合わせ	受付	分科会		レセプション	

(2) 2日目 7月3日(金) 全体会・記念講演

	9:00	9:30	10:30	12:00	12:20
3日 (金)	受付	全体会 I	記念講演	全体会 II	

## (3) 7月2日(木)の日程詳細

理 事 会 11:00～12:00	分科会打合せ 12:00～13:15	分科会 13:30～16:30
ウインクあいち 12 階会議室	ウインクあいち 10 階会議室	各分科会会場
○開催県会長挨拶 ○R7年度会務・会計報告 ○R8年度事業計画・予算 ○大会宣言・決議文 ○愛知大会概要説明 ○次年度開催県より 石川県(基本構想等)	※昼食 ○挨拶 ○分科会の進行確認 運営責任者、会場責任者、 司会者、発表者、記録者の 打合せ	○開会のことば ○研究協議 口頭発表 研究協議 まとめ ○閉会のことば

## (4) 7月2日(木)の分科会研究題・分担及び分科会会場

分 科 会	研 究 題	口頭 発表	司会	会 場
1	「カリキュラム・マネジメント」の推進	静岡 三重	愛知 三重	1201 中会議室 A
2	「主体的・対話的で深い学び」の実現	岐阜 愛知	岐阜 愛知	901 大会議室
3	よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実	福井 静岡	愛知 静岡	1202 中会議室 A
4	健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実	石川 岐阜	石川 愛知	903 中会議室 B
5	一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実	愛知 富山	愛知 富山	902 大会議室
6	自己指導能力を育成する生徒指導の充実	三重 石川	愛知 石川	1003 中会議室 B
7	「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成	三重 愛知	三重 愛知	1002 大会議室
8	学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革」の実現	福井 富山	福井 愛知	1001 大会議室

## (5) 分科会参加人数要請(会員数の50%、愛知県100%) ※令和7年9月現在

県名	石川	三重	富山	福井	静岡	岐阜	愛知	総計	グループ 数
会員数	84	145	75	68	249	171	409	1201	
参加人数	42	73	38	34	125	86	409	807	
第1分科会	4	9	4	4	15	11	45	91	15
第2分科会	5	9	5	4	18	14	65	120	20
第3分科会	6	9	4	5	15	10	43	92	15
第4分科会	5	7	4	3	11	9	33	72	12
第5分科会	6	10	7	4	18	11	64	120	20
第6分科会	6	8	4	3	11	8	32	72	12
第7分科会	5	11	4	5	19	12	64	120	20
第8分科会	5	10	6	6	18	12	63	120	20
合 計	42	73	38	34	125	86	409	807	134

(6) 7月3日(金)の日程詳細

受付 9:00~9:30	全体会Ⅰ 9:30~10:20	記念講演 10:30~11:50	全体会Ⅱ 12:00~12:20
Niterra 日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール			
	○開会式 国歌斉唱 開会の挨拶 来賓祝辞 来賓紹介 大会宣言・決議文	○講演 ・演題 「(現在調整中)」 ・講師 トヨタ自動車株式会社 古賀 伸彦 氏 東 崇徳 氏	○次年度開催県挨拶 ○閉会式 閉会の言葉

7 記念講演

○講師 トヨタ自動車株式会社

こが のぶひこ  
**古賀 伸彦 氏** (未来創生センター センター長 株式会社豊田中央研究所 代表取締役 CEO)



平成 3 年 4 月 入社  
平成 13 年 1 月 トヨタモーターヨーロッパ 欧州技術法規渉外 マネージャー  
平成 27 年 1 月 技術統括部長  
平成 28 年 4 月 未来創生センター 統括部長  
平成 31 年 1 月 未来創生センター長 (現在に至る)  
令和 3 年 3 月 株式会社豊田中央研究所 顧問  
令和 3 年 6 月 同社 代表取締役 CEO 就任 (現在に至る)

あずま たかのり  
**東 崇徳 氏** (Chief Risk Officer 経理本部 本部長)



平成 11 年 4 月 入社  
平成 14 年 10 月 厚生労働省 出向2年  
平成 26 年 1 月 人材開発部 主幹  
平成 26 年 8 月 ブラジルトヨタ 出向3年(TOYOTA DO BRASIL LTDA.)  
平成 31 年 1 月 人材開発部 部長  
令和 4 年 1 月 総務・人事本部 本部長  
令和 5 年 4 月 Chief Human Resources Officer  
令和 7 年 1 月 Chief Risk Officer 台湾担当 (統括部長)

8 大会参加費 7,500円

9 大会事務局 東海北陸中学校長会研究協議会愛知大会事務局

(愛知県小中学校長会事務局)

〒460-0007 愛知県名古屋市中区新栄一丁目49-10 愛知県教育会館6F

TEL 052-261-8152

(令和7年度大会以降、シンボルマーク作成は廃止)



## 第 66 回東海北陸中学校長会研究協議会 愛知大会 研究協議の概要(案)

(第 77 回全日本中学校長会研究協議会長野大会準拠)

### Ⅰ 研究協議会主題

「『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育」

### 2 研究構想

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字をとって「VUCA」の時代とも言われている。これまで少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展と国際的な地位の低下、地球規模の課題、子供の貧困、格差の固定化と再生産、地域間格差、社会のつながりの希薄化などは、社会の課題として継続的に掲げられてきた。こうした中、新たな感染症の感染拡大の影響や相次ぐ自然災害、国際情勢の不安定化は、正に予測困難な時代を象徴する事態であった。このような危機に対応する強靱さ（レジリエンス）を備えた社会をいかに構築していくかという観点はこれからの重要な課題である。

これからの社会を見据えたとき、現時点で予測される社会の課題や変化に対応して人材を育成するという視点と、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点の双方が必要であり、「持続可能な社会を創る担い手」という目指すべき姿を実現することが求められている。つまり、今後目指すべき未来社会像は、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人一人が多様な幸せを実現できる、人間中心の社会としての「Society 5.0（超スマート社会）」である。これら社会の現状や変化を踏まえてこれからの社会を展望したとき、教育こそが、社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、人間中心の社会を支えるシステムとなる時代が到来していると言える。将来の予測困難な時代において、一人一人が豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きくなっている。

令和3年度から全面実施となった学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指して、確かな学力の育成や道德教育の充実、体験活動の重視、豊かな心や健やかな体の育成を改訂の基本的な考え方としている。そのことを踏まえて各学校において、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく

「カリキュラム・マネジメント」に努めるものとしている。また、子供たちが学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められるとしている。

中央教育審議会の『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）では、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中、子供たちの資質・能力を確実に育成するためには、学習指導要領を着実に実施していくことが重要であるとしている。その上で、2020年代を通じて実現を目指す新しい時代を見据えた学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、「個に応じた指導」を学習者の視点

から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指すとしている。その実現のためには、これまでの学校教育が担ってきた、学習機会と学力を保障するという役割、全人的な発達・成長を保障する役割、人と安全・安心につながるができる居場所としての福祉的な役割を継承しつつ、学校教育を社会に開かれたものとしていくこと、学校教育を支える全ての関係者が、それぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することで必要な改革を進めていくことが期待されている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に資するよう、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげられるようにすることも期待されている。同時に、教師の勤務時間管理の徹底や学校及び教師が担う業務の明確化・適正化、教職員定数の改善充実、専門スタッフや外部人材の配置拡充などの学校における働き方改革の強力な推進が必要である。

全日本中学校長会は、全日中新教育ビジョンの趣旨を踏まえ、学校における働き方改革を含めた新たな教育課題に対しても果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を進めていかなければならない。そこで、令和8年度第66回東海北陸中学校長会研究協議会愛知大会において、『『豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創る担い手』を育てる中学校教育』を研究協議会主題として研究を深め、我が国の中学校教育の向上に資するとともに、広く国民の負託に応えたい。

### 3 分科会研究題と研究の視点

#### 第1分科会 「カリキュラム・マネジメント」の推進

##### 【解説】

予測困難で急激に変化する社会に生きる子供たちは、未知の状況に対応し、新しい時代を切り拓いていく力を身につけなければならない。そのため学校は、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を形成するという目標を社会と共有しながら、子供たちに育成すべき資質・能力を具体的かつ明確に示し、社会と連携・協働して育てていくための「カリキュラム・マネジメント」を推進することが求められる。

子供たちが豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となるためには「生きる力」が必要であり、育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱からなる。

そこで各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる力の育成のために、教科等横断的な学習の充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等が求められており、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上に努めることが必要である。

##### 【研究の視点】

- ① 学習指導要領に基づく教育課程の実施状況を把握し、学習効果の最大化を図るための工夫
- ② 新しい時代に求められる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習基盤となる資質・能力を含む）を育成していくための教科等横断的な教育課程の編成・実施・評価・改善
- ③ 地域の人的・物的資源を有効活用した「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善



## 第2分科会 「主体的・対話的で深い学び」の実現

### 【解説】

VUCA（「Volatility（変動性）」・「Uncertainty（不確実性）」・「Complexity（複雑性）」・「Ambiguity（曖昧性）」）という言葉に代表されるように、先行き不透明で予測困難な時代の中においては、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要である。

そのために、講義型の一斉授業のスタイルから、学習者を主体として他者との協働や課題解決学習などを通じ、深い学習を体験し、自ら思考することを重視する取組が必要になる。その際、自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や態度を育むという視点をもって、教育課程の編成・実施や質保証の取組を行うことが重要である。

教師には、習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し、個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら、子供たちの変化等を踏まえつつ自ら指導方法を不断に見直し、改善していくことが求められる。その際、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが大切である。加えて、対面指導の重要性、オンライン教育等の実践で明らかになる成果や課題を踏まえ、発達の段階に応じて、1人1台（一人一台）端末の日常的な活用を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて推進するとともに、日々の授業改善に取り組んでいくことが必要である。

### 【研究の視点】

- ① 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫
- ② 全ての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上
- ③ 全ての子供たちの可能性を引き出す、学習者主体の学びの実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と1人1台（一人一台）端末の活用の推進

## 第3分科会 よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実

### 【解説】

全ての人が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として互いを尊重するとともに、ウェルビーイングな社会を目指し、その実現に向けた社会的包摂を推進する必要がある。学校や地域社会の一員として参画し、自らの個性を生かして幸せに生活でき、誰一人取り残されず一人一人の可能性が最大限に引き出されることができるようにする上で、他者への共感や寛容性、更には多様性を尊重する態度、人間関係を築く力、異なる考えの人々と議論を重ねながら問題を解決していく力などを育成する機会を計画することが重要である。そのためには、学校教育活動全体を通じ道德教育の推進を図るとともに、「特別の教科道德」を要とし、発達の段階に即した計画的、発展的な指導や様々な体験活動等を生かす指導など、道德的諸価値についての理解を基に、人間としての生き方についての考えを深める授業の充実を図り、生徒の道德性を養うことが必要である。

また、現実の問題に対応できる資質・能力を育むためには、道德教育推進教師を中心とした指導体制を充実するとともに、生徒が自分自身の問題と捉え真正面から向き合い、一面的な見方から多面的・多角的に考え議論していく「考え、議論する」道德科の授業を実施することが大切である。

さらに、各学校や地域等が抱える課題に応じた取組を推進するため、家庭や地域社会と育てたい生徒像を共有し、相互の連携強化を図ることも重要である。

#### 【研究の視点】

- ① 道徳的諸価値についての理解と、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ② 生徒が自ら考え理解し、主体的に道徳性を育むための指導と評価の工夫
- ③ 道徳教育推進教師を中心とした協力的な指導体制の充実

### 第4分科会 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実

#### 【解説】

生徒の体力の状況については、令和5年度体力合計点を前年度と比較すると横ばい、向上傾向と捉えられる結果だった。生活習慣では朝食欠食とスクリーンタイムは更に増加した。授業に対する意識においては、「楽しい」と感じる生徒は「運動時間」が長く、「総合評価、体力合計点」が高いことを示す結果となった。また、「保健を学習してもっと運動したいと思うようになった」と回答した生徒は、日頃の運動時間が長く、高い体力を有し、将来の運動の継続にも前向きであることが分かった。運動やスポーツを、生涯を通じた健康の保持増進につなげるためには、体の発育・発達や病気の予防、けがの防止などの理解が不可欠であり、引き続き保健体育の学習の充実が求められる。

こうした指摘を踏まえ、生涯を通じて心身共に健康・安全で活力ある生活を送るために必要な資質・能力を育て、心身の調和のとれた発達を図り、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う必要がある。特に、食育の推進並びに体力の向上に関する指導、運動領域と保健領域、体育分野と保健分野との一層の関連を図った指導に努めなければならない。

#### 【研究の視点】

- ① 生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成と体力の向上
- ② 食育の推進及び心身の健康の保持増進に関する指導の充実
- ③ 運動と健康との関連性を深く理解し、より実生活に生かせる保健分野と体育分野の関連を図った授業の充実

### 第5分科会 一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実

#### 【解説】

今日、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行している。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結しており、また、学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え、社会問題ともなっている。このような状況の中、生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、「キャリア・パスポート」等を活用し、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることが求められている。各中学校においては、生徒や地域の実態を踏まえつつ、学校のこれまでの取組などを生かしながら、基礎的・汎用的能力に示される4つの能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を焦点化し、具体的な目標を設定していくことが必要である。また、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うことが重要である。

### 【研究の視点】

- ① 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する系統的なキャリア教育の充実
- ② 特別活動を要としてつつ教育活動全体を通して取り組まれる組織的・計画的な進路指導の充実
- ③ 学校と地域社会や産業界等が連携・協働した体験的な学習活動の充実

## 第6分科会 自己指導能力を育成する生徒指導の充実

### 【解説】

学校教育は、集団での生活や活動を基本としており、生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深く関わっている。好ましい人間関係を基礎に置き自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成することは、人格のよりよい形成と学校生活の充実の基盤となる。昨今、子供たちの多様化が進み、様々な困難や課題を抱える児童生徒が増える中、学校教育には、子供の発達や教育的ニーズを踏まえつつ、一人一人の可能性を最大限伸ばしていく教育が求められている。こうした中で、生徒指導は、一人一人が抱える個別の困難や課題に向き合い、「個性の発見とよさや可能性の伸長、社会的資質・能力の発達」に資する重要な役割を有している。

平成25年に施行されたいじめ防止対策推進法に基づき、組織的な対応と関係機関との連携の強化等が図られているにもかかわらず、いじめの重大事態の発生件数は増加傾向にある。また、児童生徒の自殺者数や不登校児童生徒数も増加傾向にあることを踏まえ、各学校では組織的、継続的な支援・取組を更に充実させるとともに、家庭や地域及び関係機関、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフ等との連携を一層充実させる必要がある。

### 【研究の視点】

- ① 好ましい人間関係を築き、他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する学校教育の在り方
- ② いじめ問題への対応や自殺の防止及び不登校生徒への支援の在り方
- ③ 家庭や地域及び関係機関、専門スタッフ等との連携・協力を密にした生徒指導の推進

## 第7分科会 「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成

### 【解説】

「令和の日本型学校教育」を実現し、それを担う質の高い教師となるためには、教師自身が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心をもちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続ける主体的な姿勢が必要である。

また、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を進化させ、教育の質を向上させる能力、さらに、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えていることが求められる。今後、あらためて教師が学びに関する高度専門職として認識されるためには、地域や学校現場の課題の解決を通じた学びを含め、自らの日々の経験や他者から学ぶといった「現場の経験」も含む学びのスタイルの多様性の重視は「新たな教師の学びの姿」を構想する上での鍵となる。さらに、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」を実現していくことや、教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが求められる。また、教員養成段階から、生徒にプログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力も含む情報活用能力を身につけさせるためのICT活用指導力を養成することや、学習履歴（スタディ・ログ）の活用などの、教師のデータリテラシーの向上に向けた教育などの充実を図っていくことが求め



られており、現職の教師に対してはICT活用指導力の一層の向上を図ることが急務である。さらに、心理や福祉、看護等の専門スタッフなど多様な人材と協力したり、地域と連携・協働を円滑に行ったりする資質・能力をもち、新たな領域の専門性を身につけるなど強みを伸ばして諸課題の解決に取り組むことができる人材の育成が求められる。

#### 【研究の視点】

- ① 生徒や保護者、地域の信頼に応えられる教師の育成と「新たな教師の学びの姿」を実現する研修の在り方
- ② 教科等の専門性と指導力、及びICT活用指導力を含めた新たな課題に対応できる力量を高める人材育成と研修の在り方
- ③ 地域等と協働し、組織的に諸課題の解決に取り組むことができる教師の育成

### 第8分科会 学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革」の実現

#### 【解説】

学校には、これまでも新たな課題に応じて、司書教諭、栄養教諭等の新しい職が導入されてきた。近年は、ますます複雑化・多様化する教育課題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の教員以外の専門スタッフが導入されている。そのため、これからは教職員間のより一層の組織的対応を強化することはもちろん、全てを教職員が担う自己完結型の運営を廃し、これら専門スタッフの配置促進と協働を推し進め、学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かして能力を発揮する「チームとしての学校」を実現していくことが求められる。また、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）等を活用するなど、「チームとしての学校」と地域の連携体制を整備していくことで、地域とともにある学校づくりを推進し、社会総がかりで教育を進めていくことも求められる。また、その結果として、教師が担うべき業務の精選・明確化などを図り、新たに導入された教員業務支援員、情報通信技術支援員等を活用し、教員の働き方改革につなげていくことや、学校事故の対応等の諸課題について教育委員会等に配置されているスクールロイヤー等を活用しての法的整理を踏まえた役割分担・連携が必要である。さらに、子供たちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保するため、地域の実情に応じながら、部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備を着実に進めることも求められる。

こうした「チームとしての学校」と「働き方改革」の実現のため、校長は、これまでの教職員の管理を主とするマネジメントから脱却し、多様な知識・経験をもつ人材との連携を強化し、そうした人材を取り込むことで、社会のニーズに対応しつつ、高い教育力をもつ組織となるためのマネジメントを進めていく必要がある。

#### 【研究の視点】

- ① 教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方
- ② 「チームとしての学校」と地域の連携・協働体制の在り方
- ③ 専門スタッフ等との連携による教員の働き方改革の実現

## 第66回 東海北陸中学校長会研究協議会 愛知大会 分科会執筆要項

### 1 書式設定について（ワードを御使用ください。）

- (1) A4版 横書き 2段組 一行22文字 1ページ行数45行
- (2) 上下余白(上端 20mm、下端 20mm) 左右余白(左端 20mm、右端 20mm)
- (3) 字体は、**MS明朝 10.5ポイント（大項目以外のすべての部分）**とする。  
1桁の算用数字は全角で、2桁以上の算用数字は原則、半角で表記してください。
- (4) 大項目は、**MSゴシック 12ポイント 太字**（「I はじめに」など）とする。
- (5) 中項目・小項目は、**MSゴシック 10.5ポイント 太字**とする。
- (6) 写真は、縦10行分×横22文字分を目安とする。

### 2 装丁について

研究主題、主題名等の書式については、こちらで統一させていただきます。

### 3 数字及び記号について ※原則として、次の順でお願いします。

**I II III ……( MSゴシック 12P)、次に 1 2 3 ……( MSゴシック 10.5P 太字)**

以下順に (1) (2) (3) ……( MSゴシック 10.5P 太字 ※ (1)……全角1文字 )

**① ② ③ ……( MSゴシック 10.5P 太字 )**

**ア イ ウ ……( MSゴシック 10.5P 太字 )** とする。

### 4 ページ数について

研究主題、主題名等を含め、4ページでお願いします。

### 5 その他

- (1) 写真は、縦9行×横22文字分を目安に挿入してください。キャプションの有無はお任せします。  
キャプションを付ける場合には、本文と混同しないよう【 】や< >などの括弧を使用し、**MSゴシック**で作成してください。
- (2) 分科会当日配布の大会要項（大会誌）には、モノクロ（白黒）印刷で掲載させていただきます。  
写真や資料において、カラーならば色で区別できる内容が白黒だと判別しにくくなる場合があります。コントラスト等にご留意ください。

※ 実際に作成するための雛形を次ページから示します。

テキストボックスや図を消去していただき、このファイルに上書きしていただくとよいかと思ひます。

## 「カリキュラム・マネジメントの推進」

一 コミュニティ・スクールを基盤とした、地域とともにある学校づくりを目指して 一

〇〇県〇〇立〇〇中学校    〇   〇   〇   〇

## I はじめに

2 ○○○○○

★A4×4ページで作成をお願いします。

- ・余白、文字数、フォントなどが設定してあります。
  - ・本文はMS明朝、見出しはMSゴシックでお願いします。
  - ・行数は45行（最大）で設定してあります。
- （次ページに設定の詳細があります）

\*テキストボックスや図を消去していただき、このファイルに上書きしてご使用ください。

## Ⅱ 研究の内容

1 0000

3 ○○○○○

(1) ○○○○○

[次ページへ](#)



「レイアウト」 ⇒ 「ページ設定」

ページ設定

文字数と行数 余白 用紙 その他

文字方向

方向: ☒ 横書き(Z) ☐ 縦書き(V)

段数(C): 2

文字数と行数の指定

☐ 標準の文字数を使う(N) ☒ 文字数と行数を指定する(H)

☐ 行数だけを指定する(Q) ☐ 原稿用紙の設定にする(X)

文字数


文字数(E): 22 (1-24) 字送り(I): 10.45 p

☐ 標準の字送りを使用する(A)

行数

行数(R): 45 (1-50) 行送り(I): 16.15 p

プレビュー



設定対象(Y): 文書全体

グリッド線(W)...

フォントの設定(E)...

既定に設定(D)

OK

キャンセル

ページ設定

文字数と行数 余白 用紙 その他

余白

上(T): 20 mm 下(B): 20 mm

左(L): 20 mm 右(R): 20 mm

とじしろ(S): 0 mm とじしろの位置(U): 左

印刷の向き

縦(P) 横(S)

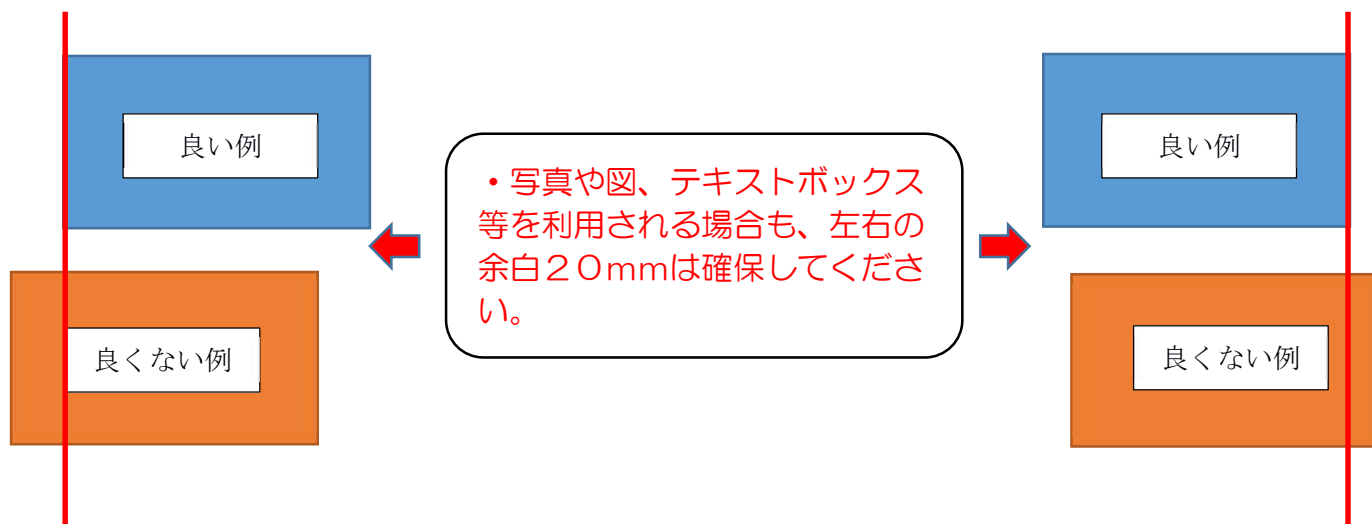
複数ページの印刷設定

印刷の形式(M): 標準

プレビュー

設定対象(Y): 文書全体

既定に設定(D) OK キャンセル



### Ⅲ おわりに

○○○○○○○ • • • •